

第68期 報告書



平成19年4月1日 ▶ 平成20年3月31日

NEW AIR, ON AIR. v asah

50th anniversary

証券コード:9409

To Our Shareholders

ごあいさつ

皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。 第68期の報告書をお届けするにあたり、皆様の日頃のご支援に、心から御礼申し上げます。

当期の日本経済は、当初、輸出の拡大により企業収益が高水準で推移していることを背景に設備投資が増加するなど、緩やかな景気回復を続けました。しかしながら、サブプライムローン問題が尾を引くアメリカ経済の減速や、原油価格をはじめとする素材価格の高騰、円高の進行などから、企業収益圧迫への懸念が強まり、株式市場の低迷もあいまって、景気の先行きに不透明感が強まりつつあります。

放送業界におきましては、個人消費の回復の弱さなどにより、企業の業況感に一部慎重さがうかがわれたこと、また、前期には「2006FIFAワールドカップ™ ドイツ大会」があったこともあり、広告出稿が前期実績を下回りました。

視聴率では、全日帯(午前6時〜翌日午前0時)7.9%、プライムタイム(午後7時〜午後11時)12.3%、ゴールデンタ

イム(午後7時~午後10時)11.5%、プライム2(午後11時~翌日午前1時)8.4%をマークいたしました。とりわけプライムタイムは2期ぶり、開局以来2回目の単独2位となり、全日視聴率も開局以来最高の数字を記録するなど、大きな躍進を遂げました。

広告収入も厳しい市況のなかで健闘いたしました。

タイム収入は、前期の「2006FIFAワールドカップ™ ドイツ 大会」などの目減り分が大きかったものの、サッカー「AFC アジアカップ2007」や開局50周年記念のドラマスペシャル「松本清張 点と線」などの大型単発、またレギュラー番組のベースアップによって、わずかではありますが前期実績を超えることができました。

スポット収入は、前期と比べて1.5%の減収となりましたが、 視聴率上昇を背景とした積極的なプロモートに努めたことに より、5期連続で東京地区におけるシェアを伸ばすことがで きました。

※1. 視聴率データは、いずれもビデオリサーチ調べ2. 視聴率期間: 平成19年4月1週~平成20年3月4週(4/2~3/30)

コーポレート・ステイトメント: 「NEW AIR. ON AIR.」

平成20年4月、テレビ朝日はコーポレート・ステイトメント「NEW AIR, ON AIR」を発表しました。この言葉は、テレビ朝日ビジョン「独創的なコンテンツを通して、常に時代の新しい旋風(かぜ)を起こし、お客さまとともに進化し続けます」を端的に表現し、社内外に発信していくメッセージとして生まれました。

「NEW AIR」は、新しい何かに気づくこと、感じること、

そして新しい何かを始めることを指しており、「新しい旋風(かぜ)を起こす」ことを表しています。また、「ON AIR」は、単に「放送する」を超えて、私たちが「新しい旋風(かぜ)をお客さまに届ける」ということを表しています。

我々は、この精神に沿った企業活動により成果を積み 重ねていくことで、選ばれ続ける企業となることを目指 します。 広告外収入は堅調に推移いたしました。

ブランドネームを「Ropping」に統一したテレショップ事業は、「セレクションX」や「ちい散歩」内の通信販売が、多くの皆様からご支持をいただきました。

イベント事業では、夏の定番音楽イベント「SUMMER SONIC 07」などに加え、開局50周年記念企画「大徳川展」、「ブロードウェイ・ミュージカル『ヘアスプレー』」など数多くのイベントを開催し、好評を得ることができました。

さらに、「相棒」「帰ってきた時効警察」「内村プロデュース」などの番組のビデオ・DVD化、商品化、出版などのコンテンツビジネスにも精力的に取り組み、多くのお客様に喜んでいただける商品を提供することができました。

音楽出版事業では、連結子会社の(株)テレビ朝日ミュージックの専属アーティストが活躍しました。

地上デジタル放送も、順調にカバーエリアを増やしております。

平成23年7月に予定されている地上アナログ放送停波・デジタル放送への完全移行に向けて、地上デジタル放送の一層の普及促進に今後も積極的に取り組んでまいります。

テレビ朝日は平成19年度から5ヶ年の「新中期経営計画」を スタートさせました。 目標は、『平成23年度にプライムタイムで視聴率トップを獲る』『平成23年度に連結売上高3,000億円、営業利益200億円を達成する』『創造力を最大限に発揮できる企業風土を作る』ことです。

計画初年度は、視聴率の上昇、スポットシェアの拡大、開局50周年記念期間の好調なスタート、といった点で着実な成果があらわれました。

新中期経営計画の達成を目指して、さらにコンテンツ力を つけて飛躍すべく、積極的に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも新しく生まれ変わり続けるテレビ朝日にご期待をいただくとともに、今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月



代表取締役社長

君和田 正夫

Consolidated Operating Review

テレビ放送事業

編成コンセプトと成果

平成19年4月編成では、「新中期経営計画」の幕開けに ふさわしい"フレッシュ"なラインナップを揃えました。 この結果、若い世代から高い支持を得るバラエティー番 組を多く輩出するなど、プライムタイムを中心に大きな 躍進を遂げることができました。

平成19年10月編成では、開局50周年記念期間の幕開けを迎え、総力を結集して臨みました。レギュラー番組の強化に加え、スペシャル番組を積極的に編成した結果、

通期で、プライムタイムで2位、全日帯で3位、プライム 2でトップという成果に繋がりました。

レギュラー番組

バラエティー系番組では、「いきなり!黄金伝説。」 (木曜夜7時)、「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」 (月曜夜8時)、「ビートたけしのTVタックル」(月曜夜9時)などが高い水準の視聴率を維持しております。また、夜11時台のネオバラ枠の各番組も平均10~12%台の視



木曜夜7時「いきなり!黄金伝説。」



水曜夜9時「相棒 season6」



月曜 夜8時「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」



木曜 夜9時「交渉人~THE NEGOTIATOR~」



月曜 夜9時「ビートたけしのTVタックル」



月~金曜 夜9時54分「報道ステーション」



11月24日、25日夜9時「松本清張 点と線」



12月**21**日 夜**7**時「ミュージックステーション スーパーライブ2007 |



野球「北京オリンピックアジア地区最終予選」



聴率をキープするなど好調で、若い世代を中心に高い評価をいただいております。

ドラマでは、10月からスタートした「相棒」が6シーズン目に突入、平均15.9%の高い視聴率を記録したほか、「交渉人~THE NEGOTIATOR~」「その男、副署長~京都河原町署事件ファイル」など、多くの高視聴率番組を放送いたしました。

報道情報番組では、「報道ステーション」が平均14.1%と安定した高視聴率を獲得しているほか、「やじうまプラス」「スーパーモーニング」「ワイド!スクランブル」「スーパーJチャンネル」などのベルト番組も好調。視聴者の皆様の求める情報を的確に捉えた報道で、引き続き厚い信頼を得ております。

スペシャル番組

【開局50周年記念番組】

平成19年11月1日より開局50周年記念期間に突入したことを受けて、大型コンテンツを多数放送いたしました。2夜連続のドラマスペシャル「松本清張 点と線」は第1部23.8%、第2部23.7%と高視聴率を獲得し、文化庁芸術祭テレビ部門ドラマの部で大賞を受賞するなど、各方

面から高い評価をいただきました。また、12月に行われた野球「北京オリンピックアジア地区最終予選」では日本代表の熱戦を連日地上波で独占放送し、韓国戦23.7%、台湾戦27.4%と高い視聴率を記録。さらに「日曜洋画劇場武士の一分」「ミュージックステーションスーパーライブ2007」「相棒元日スペシャル」なども高視聴率を獲得し、開局50周年記念期間の好調なスタートとなりました。

【その他のスペシャル番組】

ドラマでは、2夜連続で放送した黒澤明ドラマスペシャル「天国と地獄」「生きる」や、「スペシャルドラマ必殺仕事人 2007」「特命係長 只野仁スペシャル'08」などの大型ドラマを放送、多くの皆様から高い支持を得ました。

スポーツでは、7月に行われたサッカー「AFCアジアカップ2007」を地上波独占放送し、6試合平均で20%超えの高視聴率を獲得。さらに「フィギュアスケートグランプリシリーズ」やサッカー「AFCチャンピオンズリーグ決勝戦 浦和レッズ×セパハン」のゴールデンタイム緊急編成など、柔軟かつ質の高い放送で、多くのスポーツファンの皆様から「スポーツのテレ朝」として高い支持をいただいております。

Consolidated Operating Review



火曜 夜7時「ザ・クイズマン!」



水曜夜7時「くりいむナントカ」



木曜 夜9時「7人の女弁護士」



金曜夜9時「パズル」



月~金曜午後4時53分「スーパーJチャンネル」

平成20年4月以降の編成方針

開局50周年記念期間は平成21年3月まで続きます。これまでにも増して充実のラインナップで臨む平成20年4月の改編にご注目下さい。

バラエティー番組は、これまで深夜レギュラー枠や特番で好成績をあげた番組をゴールデンタイムでレギュラー化いたします。火曜夜7時には、これまで土曜夕方で好調だったクイズバラエティー「ザ・クイズマンショー」を「ザ・クイズマン!」とリニューアルして編成。そして水曜夜7時には月曜ネオバラ枠の人気番組「くりぃむナントカ」がさらにパワーアップしてゴールデンタイムに進出します。

ドラマでは、水曜夜9時に渡瀬恒彦・井ノ原快彦ら個

性豊かな6人の刑事が活躍する「警視庁捜査一課9係」。そして、木曜夜8時には沢口靖子主演の「新・科捜研の女」、木曜夜9時には釈由美子主演の「7人の女弁護士」と女性を中心に視聴者の皆様からの高い支持を得たドラマを編成いたします。また、金曜夜9時には石原さとみ主演の本格学園ミステリー「パズル」、金曜夜11時台には、コメディータッチのミステリー「キミ犯人じゃないよね?」をラインナップいたしました。

スポーツでは、「全米オープンゴルフ」「全英オープンゴルフ」とゴルフの2大メジャーを放送。さらに8月の「北京オリンピック」では、日本中が注目する熱戦を連日お届けいたします。

音楽出版事業

当期の主な取り組み

音楽著作権・著作隣接権の管理事業は、楽曲の配信市場の拡大などにより、堅調に推移しております。

音楽コンテンツ事業・アーティストマネジメント事業 は、(株) テレビ朝日ミュージックの専属アーティスト が、引き続き大活躍しております。

"ケツメイシ"はアルバム「ケツノポリス5」やシング

ル4作品をリリースし、いずれもヒット作品となりました。また2月からコンサートツアーが全国のアリーナクラスで行われており、各会場でのアーティストグッズの販売も好調に推移しております。

また、"湘南乃風"はシングル「睡蓮花」「黄金魂」を リリース。大晦日にはカウントダウンライブコンサート を開催し、1万人を超す入場者を記録しました。

今後も、新人アーティストのプロモーション活動など、ヒットアーティストを継続して輩出すべく事業展開を行ってまいります。



ケツメイシ



「ケツノポリス5」



「聖なる夜に/冬物語



湘南乃風



「黄金魂」

その他事業

当期の主な取り組み

■出資映画事業

出資映画事業では、「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ 歌うケツだけ爆弾!」がシリーズ歴代3位となる大ヒット。「仮面ライダー電王・獣拳戦隊ゲキレンジャー」も好評を博しました。さらに、1月公開の「母べえ」、3月の新生ドラえもん第3弾「ドラえもんのび太と緑の巨人伝」が順調な観客動員を記録しています。

■イベント事業

イベント事業では、開局50周年記念企画「大徳川展」「LUNA SEA 一夜限りの再結成ライヴ」「徹子の部屋コンサート」をはじめ、「RED HOT CHILI PEPPERS」「ブロードウェイ・ミュージカル『ヘアスプレー』」「SUMMER SONIC 07」など数々のイベントを開催し、多くの観客を動員しました。

■ ビデオ・DVD化事業

ビデオ・DVD化事業にも積極的に取り組みました。水

谷豊・寺脇康文のコンビでおなじみの「相棒」やオダギリジョー主演の「帰ってきた時効警察」などのレギュラードラマの作品をリリース。またバラエティーでは深夜で人気のあった「内村プロデュース」を3本同時に発売し、いずれも好調な売上を記録しました。

■ テレショップ事業

テレショップ事業は、7月末にブランドネームを「Ropping」に統一。「セレクションX」や「ちい散歩」内の通信販売が順調に推移しております。

■インターネット事業

インターネット事業では、携帯電話向け会員制有料情報サービス「テレ朝コンプリート!」をはじめとした放送連動コンテンツ配信の充実により、安定した業績をあげております。

■ CS事業

CS放送の「テレ朝チャンネル」の加入者数は、平成20年3月末時点で217万世帯を超えました。過去に地上波で放送したドラマやアニメなどの人気番組に加え、テレ朝チャンネル"オリジナル"の番組が視聴者の皆様の支持を得ております。



「ドラえもん のび太と緑の巨人伝」 ◎ 藤子ブロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK 2008



「大徳川展」



月〜金曜 朝**9**時**55**分 「ちい散歩」



CSオリジナルバラエティー 「上田ちゃんネル」



技術局制作技術センター

"制作技術センター"では、テレビ番組の映像・音声の制作を行っています。番組の内容に合わせ、カメラ、マイク、ライトなどを配置・調整。それらから作成した映像・音声を選択し、生放送したり、VTRに収録したりと、テレビ局らしい、比較的わかりやすい仕事内容の部署だと思います。

各ジャンル(バラエティー、スポーツ、ドラマなど)のテクニカルマネージャー(TM)のもと、撮像(カメラ)、音声、映像(ビデオエンジニア)、照明というチームがあり、よりよい番組作りを目指して、日々努力しています。

六本木の本社ビル内には、大小あわせて10のスタジオがあります。生放送ですと、朝の「やじうまプラス」から始まり、夜の「報道ステーション」までほぼ一日中、収録番組では「いきなり!黄金伝説。」、「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」などのバラエティーや、ドラマ「7人の女弁護士」など数多くの番組を制作しています。

私たち制作技術センターが誇れる番組の1つとして、「ミュージックステーション」があげられます。全て生放送の音楽



番組で、その完成度 の高さからか「本当 に生(放送)なの?」 と聞かれることがよ くあります。もちろ ん本当です。朝から 一日かけてリハーサィ ストの皆さんのいい 顔、いい歌を放送することに全力で取り組んでいます。

また、昨年にはマラソンの移動車としても活躍できる"中型中継車"が完成。自慢の"大型中継車"に加え、様々なジャンルの中継番組で活躍しています。大型中継車はカメラ15台規模の野球やサッカーなど、中型中継車はゴルフやマラソンなどと、番組の用途に合わせ制作することが可能になりました。音声では、今年4月のゴルフ中継番組を、5.1chサラウンドで放送し好評を得ました。

中継では似たような番組を制作する場合でも、番組意図、撮影場所、予算などによって技術の内容が大きく変わってきます。 技術責任者として、テクニカルディレクター(TD)が技術全体の規模、カメラの位置など最良なプランを組んで制作しています。制作技術センターが本領を発揮する仕事の一つです。

これら数多くの番組を作るには、制作技術センターだけではとても人手が足りません。テレビ朝日の心強い関係会社とチームを組んで、良い番組、そして良い視聴率がとれるように頑張っています。

談

浅川 英俊

スポーツ中継には野球、ゴルフ、水泳、マラソンなどいろいろありますが、サッカー好きの私にとっては、今年の目玉はなんといっても、秋からはじまる「2010FIFAワールドカップ™アジア地区最終予選」で



す。現在は、3次予選が行われているところですが、日本代表は 間違いなく最終予選に進み、アジアの強豪との戦いに日本中が熱 く燃えることになるでしょう。

私は、サッカー中継のスイッチャーという、映像を切り替える 仕事を行っています。日本代表の試合ではカメラを15台以上配置 し、その中からタイミング良く映像を選ぶことに全神経を集中! 真剣勝負から生まれる感動、一瞬の芸術を日本中、そして世界に 送り届けるこの仕事は責任重大です。

テレビ朝日は、これまでも日本代表の数多くの "絶対に負けられない戦い" を放送してきました。私も日本代表と一緒に "絶対に負けられない戦い" に挑んでいます!

頑張れ、サッカー日本代表!

経営成績

当期の放送業界は、個人消費の回復の弱さなどにより、企業の業況感に一部慎重さがうかがわれたこと、また、前期には「2006FIFAワールドカップ™ドイツ大会」があったこともあり、広告出稿が前期実績を下回りました。

このような経済状況のなか、当社グループは、テレビ放送事業はもとより、音楽出版事業やその他事業での収益確保に努めた結果、当期の売上高は、2,527億4千6百万円(前期比0.6%増)となり、営業費用は2,427億6千9百万円(同2.2%増)となりました結果、営業利益は99億7千6百万円(同27.1%減)となりました。また、経常利益は120億8千万円(同17.2%減)、当期純利益も64億2千2百万円(同37.7%減)となりました。

財政状態

当期末の総資産は、前期末比7億8千8百万円減の3,136億7千7 百万円、自己資本比率は同1.4ポイント減の77.2%となりました。

キャッシュ・フローの状況

当期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。) は、前期末比138億7千2百万円増加し、613億5千1百万円とな りました。

■営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、175億2千6百万円の資金増で、前期に比べ38億3千8百万円増加いたしました。増加の主な要因は、税金等調整前当期純利益が33億2千7百万円減の112億4千万円となったものの、法人税等の還付にともない、法人税等の

支払額が前期に比べて53億7千万円減の20億8千9百万円となったことなどであります。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、12億9千5百万円の資金の減少となり、前期に比べて174億5千2百万円増加しました。増加の主な要因は、当期の有価証券および投資有価証券の取得による支出が、前期に比べ減少したことなどであります。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額が増加 したことにより、資金の減少額が前期に比べて9億6百万円多い23 億2千6百万円の資金の減少となりました。

次期の見通し

次期につきましては、日本経済は、雇用情勢、個人消費の回復は軟調に推移するとみられ、先行きに不透明感が出始めております。

このような経済状況のなか、当社グループ収入に大きな影響をおよぼすテレビ広告市場は、楽観視できる状況ではありませんが、視聴率の上昇を背景としたテレビ広告収入拡大に向けた積極的な営業活動を行うほか、音楽出版事業、その他事業についても収入拡大に継続的に注力することにより、売上高は増収を見込んでおります。

一方、営業費用は、「新中期経営計画」の達成に向けてさらにコンテンツ力をつけて飛躍すべく番組制作費の増額を行うため、営業利益、経常利益および当期純利益はいずれも減益となる見込みであります。



事業別売上構成比

テレビ放送事業

タイム収入は、レギュラ一番組において、「クイズプレゼンバラエティーのさ ま!! |や「いきなり!黄金伝説。」、「相棒」を放送した水曜21時のドラマ枠などを中 心にベースアップを図ることができました。一方、単発番組は、前期の 「2006FIFAワールドカップ™ドイツ大会」や「世界水泳メルボルン2007」の目減り 分が大きかったものの、サッカー「AFCアジアカップ2007」や野球「北京オリンピ ックアジア地区最終予選|「フィギュアスケートグランプリシリーズ | などの大型 単発や、開局50周年記念のドラマスペシャル「松本清張 点と線」などでカロリー アップを図った結果、954億7千4百万円(前期比0.0%増)となりました。

一方、スポット収入は、東京地区出稿量が前年割れ(同3.0%減)という厳し い市況のもとで苦戦を強いられましたが、当社は視聴率上昇を背景とした積極的 なプロモートに努めたことにより、地区前年比を上回り、シェアアップを達成し、 979億1千6百万円(同1.5%減)となりました。業種では「薬品|「住宅・建材|

「精密・事務機器」などは好調であったものの、「輸送機器」や、前期好調であった「出版」が大幅減となったほか、 「金融・保険」も引き続き前期を下回りました。

番組販売収入は、122億2千7百万円(同2.0%増)、その他収入は、(株)放送技術社、(株)トラストネットワークな どの放送関連収入の増収などにより、148億6千2百万円(同1.6%増)となりました。

以上の結果、テレビ放送事業の売上高は2.204億8千1百万円(同0.4%減)となり、営業費用は2.147億7千6百万円 (同1.8%増)となりました結果、営業利益は57億4百万円(同45.2%減)となりました。

音楽出版事業

音楽著作権・著作隣接権の管理事業は、楽曲の配信市場の拡大などにより、 堅調に推移しております。

音楽コンテンツ事業は、"ケツメイシ"のアルバム「ケツノポリス5」やシング ル4作品、"湘南乃風"のシングル「睡蓮花」「黄金魂」などがリリースされ、い ずれもヒット作品となりました。音楽配信収入につきましても、好調に推移いた しました。

アーティストマネジメント事業は、"湘南乃風"が大晦日に大阪城ホールでカ ウントダウンライブコンサートを開催し、1万人を超す入場者を記録しました。 また、9月から"ケツメイシ"のコンサートツアーが全国のアリーナクラスで行 われており、各会場でのアーティストグッズの販売も好調に推移しております。 さらに、新人アーティストのプロモーション活動など、ヒットアーティストを継 続して輩出すべく事業展開を行ってまいります。

以上の結果、音楽出版事業の売上高は96億9千7百万円(前期比3.7%増)となり、営業費用は79億3千3百万円(同 6.4%増)となりました結果、営業利益は17億6千3百万円(同6.7%減)となりました。

その他事業

開局50周年記念企画「大徳川展」や「RED HOT CHILI PEPPERS」など数多く のイベントを開催したイベント事業、「相棒」や「帰ってきた時効警察」「内村プ ロデュース」などの番組のビデオ・DVD化事業、CS放送「テレ朝チャンネル」 の加入者が着実に増加しているCS事業などが好調であったことなどから、その 他事業の売上高は321億2千3百万円(前期比10.2%増)となり、営業費用は304 億1千7百万円(同9.9%増)となりました結果、営業利益は17億5百万円(同 15.9%増) となりました。

2,204億8千1百万円 84.1%



タイム収入 954億7千4百万円 36.4%

スポット収入 979億1千6百万円 37.3%

番組販売収入 122億2千7百万円 4.7%

その他収入 148億6千2百万円 **5.7**%

321億2千3百万円 12.2%

64期 65期 66期 67期 68

96億9千7百万円 3.7%

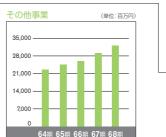
(単位:百万円

音楽出版事業

12.500

10 000

2 500



連結貸借対照表

	(単位:百万円、	百万円未満切捨)
科目	当期	前期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	167,179	153,199
固定資産	146,497	161,266
有形固定資産	56,614	59,667
無形固定資産	5,166	5,779
投資その他の資産	84,716	95,819
資産合計	313,677	314,466
(負債の部)		
流動負債	52,987	47,102
固定負債	14,927	17,920
負債合計	67,914	65,022
(純資産の部)		
株主資本	239,449	235,341
資本金	36,642	36,642
資本剰余金	55,342	55,342
利益剰余金	147,463	143,355
評価・換算差額等	2,672	11,810
その他有価証券評価差額金	2,728	11,776
繰延ヘッジ損益	△ 56	
為替換算調整勘定	0	33
少数株主持分	3,640	2,292
純資産合計	245,762	249,443
負債純資産合計	313,677	314,466

連結損益計算書

	(単位:百万円、	百万円未満切捨)
科 目	当期	前期
	自平成19年4月 1 日 至平成20年3月31日	自平成18年4月 1 日 至平成19年3月31日
売上高	252,746	251,124
売上原価	183,348	177,475
売上総利益	69,398	73,648
販売費及び一般管理費	59,421	59,970
営業利益	9,976	13,677
営業外収益	2,458	1,383
営業外費用	354	473
経常利益	12,080	14,587
特別損失	839	18
税金等調整前当期純利益	11,240	14,568
法人税、住民税及び事業税	3,589	3,113
法人税等調整額	966	837
少数株主利益	262	313
当期純利益	6,422	10,303

連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円、	百万円未満切捨)
科目	当期	前期
	自平成19年4月 1 日 至平成20年3月31日	自平成18年4月 1 日 至平成19年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,526	13,688
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,295	△18,748
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,326	△ 1,419
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 33	6
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	13,872	△ 6,472
現金及び現金同等物の期首残高	47,479	53,952
現金及び現金同等物の期末残高	61,351	47,479

連結株主資本等変動計算書

								(単化	位:百万円、百	万円未満切捨)
当期		株主	資本			評価・換	算差額等			
自 平成19年4月 1 日 至 平成20年3月31日	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合 計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	少数株主持分	純資産合計
平成19年3月31日残高	36,642	55,342	143,355	235,341	11,776	_	33	11,810	2,292	249,443
連結会計年度中の変動額 剰余金の配当 当期純利益			△ 2,313 6,422	△ 2,313 6,422						△ 2,313 6,422
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額) 連結会計年度中の変動額合計	_	_	4,108	4,108	△ 9,048△ 9,048	△56 △56	△33 △33	△ 9,137 △ 9,137	1,348 1.348	△ 7,789△ 3,681
平成20年3月31日残高	36,642	55,342	147,463	239,449	2,728	△56	0	2,672	3,640	245,762

役員(平成20年6月26日現在)

代表取締役社長 君和田正夫 役 大塚 降廣 取 締 代表取締役副社長 早河 洋 役 渡辺興二郎 取 締 専務取締役 風間 建治 役 上松 道夫 取 締 郁雄 役 北澤 晴樹 常務取締役神山 取 締 常務取締役北村 英一 役 秋山耿太郎 取 締 常務取締役髙田 弘明 締 役 岡田 剛 取 役 北島 常務取締役高野 圭司 取 締 義俊 常務取締役福田 俊男 役 権藤 滿 取 締 取締役相談役 広瀬 道卣 西村 嘉郎 締 役 取 役 武田 徹 堀 鐵藏 取 締 臤 締 役 役 堀越むつ子 Ħ∇ 締

常勤監查役 有倉 幸生 役 小林 孝一 杳 常勤監查役 浅野 正夫 役 野間佐和子 杳 香 役 荻谷 忠男

- (注) 1. 取締役秋山耿太郎、岡田 剛、北島義俊、権藤 滿および西村 嘉郎の各氏は、社外取締役であります。
 - 2. 監査役荻谷忠男、小林孝一および野間佐和子の各氏は、社外監 **査役であります。**

会社の概要(平成20年3月31日現在)

株式会社 テレビ朝日 TV Asahi Corporation

設 立 昭和32年11月1日 放 送 開 始 昭和34年 2 月1日

本 金 366億4,280万円

本店所在地 〒106-8001 東京都港区六本木六丁目9番1号

従業員数 1.237名

当社の事業所等 本社 (東京都)

アーク放送センター(東京都) 送信所・中継局(東京都ほか)

: BS(コロンブス)(東京都)

関係会社(平成20年3月31日現在)

■テレビ放送事業

● 番組制作関連業務

連結子会社

(株) エル・エス・ディー

(株) テイクシステムズ

テレビ朝日映像(株)

(株) テレビ朝日クリエイト

(株) トラストネットワーク

(株) 日本ケーブルテレビジョン

(株) ビデオ・パック・ニッポン

(株) フレックス (株) 放送技術社

(株) JCTV-HQ

JCTV America, Inc. TV Asahi America, Inc.

持分法適用関連会社 (株) 文化工房

(株) メディアミックス・ジャパン

関連会社

(株) 東北朝日プロダクション

(株) 琉球トラスト その他の関係会社

東映(株)

● BS・CSデジタル放送 持分法適用関連会社

(株) ビーエス朝日

(株) シーエス・ワンテン

● 文字放送、字幕制作・運用 連結子会社

(株) テレビ朝日データビジョン

● WEB、デジタルデータコンテンツ制作・運用 連結子会社

(株) テレビ朝日メディアプレックス

音楽出版事業

連結子会社

(株) テレビ朝日ミュージック 持分法適用関連会社

(株) ビーエス朝日サウンズ

■その他事業

● テレショップ業務

連結子会社

(株) テレビ朝日リビング

● 放送周辺業務

連結子会社

(株) テレビ朝日サービス

● アナウンサー学校 連結子会社

(株) テレビ朝日アスク

● 施設管理業務

連結子会社

(株) テレビ朝日ベスト

● ブロードバンド向け配信業務 連結子会社

ブロスタTV合同会社 関連会社

(株) トレソーラ

● アニメーション制作・販売 持分法適用関連会社

東映アニメーション(株)

● 日刊新聞発行等

その他の関係会社

(株)朝日新聞社

国内ネットワーク局(平成20年3月31日現在)

ANN加盟局

北海道テレビ放送(HTB)

青森朝日放送(ABA)

岩手朝日テレビ (IAT)

東日本放送(KHB)

秋田朝日放送(AAB)

山形テレビ (YTS)

福島放送(KFB)

テレビ朝日(EX)

新潟テレビ21(UX)

長野朝日放送 (abn)

静岡朝日テレビ (SATV)

北陸朝日放送(HAB)

福井放送(FBC)

名古屋テレビ放送(メ〜テレ)

朝日放送(ABC)

広島ホームテレビ (HOME)

山口朝日放送(yab)

瀬戸内海放送(KSB)

愛媛朝日テレビ (eat)

九州朝日放送(KBC)

長崎文化放送(NCC)

能本朝日放送(KAB)

大分朝日放送(OAB)

テレビ宮崎 (UMK)

鹿児島放送(KKB) 琉球朝日放送(QAB)

Stock Information

株式状況(平成20年3月31日現在)

発行可能株式総数 3,000,000株

発行済株式の総数 1.006.000株

株主数 36.706名

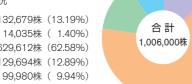
大株主

株 主 名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社朝日新聞社	340,495	33.85
東映株式会社	161,842	16.09

所有者別株式分布状況

■ 個人·その他

金融機関 132.679株 (13.19%) ■ 金融商品取引業者 14.035株 (1.40%) その他の法人 629.612株 (62.58%) ■ 外国法人等 129,694株 (12.89%)



株主メモ (平成20年3月31日現在)

事業年度毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

進 日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して

定めた日

株主名簿管理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(住所変更等用紙のご請求) 面 0120-175-417 (電話照会先)

(その他のご照会)

5 0120-176-417

(インターネット http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/ ホームページURL) service/daiko/index.html

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

大和証券株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

公告の方法 東京都において発行する朝日新聞に掲載いたし

ます。

上場取引所東京証券取引所

外国人等の 放送法第52条の8に関連して、当社の定款には次 株主名簿への の規定があります。

記載の制限定款第9条

本会社は、次の各号のいずれかに掲げる者か ら、その氏名および住所等を株主名簿に記載ま たは記録することの請求を受けた場合におい て、その請求に応ずることにより、次の各号に 掲げる者の有する議決権の総数が、総株主の議 決権の5分の1以上を占めることになるときは、 その氏名および住所等を株主名簿に記載または 記録することを拒むものとする。

- 1. 日本の国籍を有しない人
- 2. 外国政府またはその代表者
- 3. 外国の法人または団体
- 4. 上記1.ないし3.の各号に掲げる者により直接 に占められる議決権の割合が総務省令で定 める割合以上である法人または団体
- ② 本会社は、法令の定めに従い、前項各号に掲 げる者が有する株式について、株主名簿への記 載もしくは記録の制限または議決権の制限を行 うことができるものとする。